

第2回吹田市自殺対策推進懇談会

日時：令和5年11月16日（木）10：00～11：30
場所：吹田市保健所 2階 講堂

開 会

- ・事務局より、傍聴者1名
- ・事務局より、欠席者 社会福祉協議会 委員、薬剤師会 委員
- ・事務局より、資料の確認

- ・吹田市保健所長より挨拶
今年6月15日に第一回懇談会で各委員からいただいた意見をもとに、各室課と調整を図りつつ骨子案、計画素案を作成した。今会議であらためて様々な意見をいただきたい。

- ・各委員より自己紹介
- ・事務局の自己紹介

委員長よりあいさつ

本年度2回目の会議である。吹田市の自殺者数は全国比より低めで推移していたものが、コロナ禍をはさんで増加している経過がある。そのような中で自殺対策計画の検討に入る。忌憚のない意見をいただきたい。

1. 第2次吹田市自殺対策計画骨子案について

- ・事務局より、資料1「第2次吹田市自殺対策計画骨子案」の説明
骨子案は計画素案の要約であるため、資料2「第2次計画素案」により説明。

2. 第2次吹田市自殺対策計画素案について

- ・事務局より、資料2「第2次吹田市自殺対策計画素案」の説明

（質疑、意見）

- 委員：産婦の自殺者数の人数や割合はわかるか。
シティプロモーションによる吹田市独自の造語「suitable」は「吹田で実現できる」という意味の前向きなワードなので、計画の中でもどこかで使用できるとよいのではないか。
- 事務局：妊産婦の自殺者数に関する統計データは手元に資料が無く正確な数値ではないが、令和4年度は全国で60数名であった。妊娠中から産後（1年未満）の期間では、妊娠中に比べて産後1年以内に亡くなる産婦多いので、サポートが必要となる対象者であることを認識している。吹田市単独の妊産婦の自殺者数の把握は難しい。
- 委員：重点施策に盛り込まれているのは、国として課題とされていることに吹田市も課題を感じているという理由か。
- 事務局：「suitable city」は市のプロモーションで使用している造語。人口流入の大きい吹田で、吹田に来れば色々なことが実現できるまちということをアピールする意味がある。自殺対策においては、「実現できる」の前に「まず命をつなぐ」というところを重視する必要もあるので、造語を計画にどのように絡めていくかは検討が必要と考える。
- 委員長：コロナ禍で女性の自殺者数が全国的にも増加したことが、国で女性の支援が新規施策として盛り込まれた背景にあると考える。吹田市でも女性の自殺者数が増加しているなら、国の施策との連関も示せると思うがどうか。
- 事務局：平成21年からの自殺者数の推移から見ると、女性の割合は増加傾向にある。

- 委員長 : 増え続けてはいないが、増加して高止まりしている。
- 委員 : 女性の対策が取り上げられたのは有意義であると感じる。民生委員は「こんにちは赤ちゃん訪問」に協力し、年間約 3000 人出生する赤ちゃんのいる家を一軒ずつ回り、面会して案内を渡す事業を行っている。オートロックマンションに居住する世帯の増加に関係してか、複数回足を運んでも会えない家庭も多く、実態としては 6 割くらいの実施率ではないかと感じる。母子手帳発行後、出産後 4 ヶ月の時点までには時間がある。時世的に突然の訪問に応答することも問題につながるおそれがあるので、担当課で訪問事業をうまくつなげられるような工夫をしてほしい。民生委員が足を運び続けるしかなく、もどかしい思いをしているが、あらためて意義ある活動をしていると実感したので、担当課での工夫も検討してほしい。
- 委員長 : 孤立している家庭ほど会えないということもあるか。
- 委員 : 孤立や虐待のある家庭ほどつながりにくい懸念はある。会うことができれば表情や雰囲気それぞれの育児状況を知ることができる。ポストに書類を入れるだけであれば、赤ちゃん訪問事業の意味はないので、何とかつないでいきたいと思っている。
- 事務局 : 母子保健課が妊娠届受理時から様々な事業の説明はしているはずだが、時間経過とともに忘れられていることも考えられる。また、コロナ禍で入りにくくなっているということは一部聞いている。
- 委員 : できれば、対象の方の電話番号を教えてくださいが、それは難しいので、担当の民生委員と電話番号を教えてくださいなど、何とか民生委員と本人とをつないでもらうようにしてほしい。情報の取り扱いや住所探しに神経を使いながら訪問しても会えないことが多々ある状態。回数を重ねて応答してくれる家庭もあるが、訪問数が多いところでは毎月 50~60 件ある地区もあり、大変な思いをして実施していることを認識してほしい。
- 委員 : 市の計画らしく、地域密着型の計画となっている。岩脇委員の報告にあった民生委員の活動はまさに出かけていくゲートキーパーとして機能しており、行政の個人情報保護の制限にジレンマあるだろうが、住民と市の連携で話し合いを重ねて進めていくことが必要だろうと感じた。
P14 についての訂正。地域実態プロファイルは、現在は厚生労働大臣指定のいのち支える自殺対策推進センターが作成しているので修正を。
- 委員 : P13 の自殺の原因動機別の統計について。健康問題が全国では 50% で吹田市は 70% と差が大きい。統計上の問題なのかどうか。
市や会社の健康診断でメンタルヘルス関連の質問をされることが少ない。早期発見のためには健康診断の中でメンタルヘルスについて確認する機会を作ってもらいたいと考える。
- 事務局 : 高齢者対象のメンタルヘルスに関するチェックリストとしては高齢福祉室で基本チェックリスト（はつらつ元気シート）を実施している。うつ傾向をチェックできる項目が入っている。
自殺の原因別の状況については、吹田市と国との差異については資料がなく分からない。
- 委員長 : 「こころの体温計」のチラシを健康診断の場で配布するのもひとつの手段。
- 委員 : 女性は思春期、妊娠出産期、更年期で明らかにうつになる方が多く、特に妊娠後期、出産後には重篤なうつになる方の割合が多い。
介入の難しさについて、状態の悪い人ほど拒絶が強いということはよくあるが、コツコツ働きかけを続けるしかないこともある。可能性のある方はハイリスク層として母子保健課もフォローしていると思われ、産科と精神科の連携には力を入れており、以前に比べると周産期のうつに対する連携はよくなってきている印象がある。
健康診断について、会社の健診にうつのチェックを入れることも検討されたことがあるが難しかった。ストレスチェック制度はあるが、ストレスチェックは早期にストレス状態にある人を発見して改善のきっかけにすることを目的にしているものだが、これによって受診につながったり、うつ病の発見につながったりしている側面もある。
問診で拾い上げるのは難しく、質問項目が多いのも負担になる。
最近の自殺者数の増加は明らかにコロナ禍の影響が関係している。学生で言えば、学

校やクラブが休みになり、友達に会う機会も減り、明確に生活が変わった。経済的に困窮した方も多い。今回と同様のことは今後も起きる可能性はある。コロナによる死者数はとんでもなく多いものではなかったかもしれないが、パンデミックが社会に及ぼした影響は大きく、歴史の教科書にも残りそうな大きな出来事だった。これが自殺にどのように結びついたのか、検証、分析する必要はあるだろう。

委員：自殺対策計画は自殺者数の減少を目的にするものであろうと思うが、一步踏み出して「自立」ということも明記できないかと感じた。ある視覚障がい者が周囲の善意のサポートをストレスに感じているという新聞記事を目にしたことがある。後半の関係室課との連携の中で、経済的支援やハローワークと連携した就職支援も盛り込んでもよいのではないかと思った。

P44 に関係機関の掲載があるが、ハローワーク等も載せてもよいのではないか。

委員長：ハローワークは国の機関になるので、市の計画への掲載はしにくい。

事務局：P54 の労働相談の項目で、吹田市内の雇用促進及び就職困難者への支援として市が特に力を入れているものを記載している。ハローワークと同類の支援をしている（ジョブナビすいた）。

委員長：キャッチフレーズについて。「いのち支えるまち吹田」が候補として事務局からあげられている。ほかに「生きる希望のあるまち」「あなたらしく生きるまち」があった。「いのち支えるまち」は市が支えるという意味表示も見えて良いのではないか。

事務局：シティプロモーション的な意見もあるが、まずは自殺者の増加している現状を食い止めるところに主眼をおいて「いのち支えるまち」を事務局としては上げた。

委員：自殺者の増加に超過勤務によるストレスがある、ということが各所に見られる。P13 の「勤務問題」に超過勤務の問題も含まれているのかどうか確認したい。

事務局：P12 原因動機の区分説明を参照。勤務問題には仕事の失敗、職場の人間関係、初期場環境の変化、仕事疲れその他が含まれている。

委員長：勤務問題に超過勤務問題は含まれていると理解できるのではないか。

事務局：含まれると理解してもらえるとよい。

委員長：「こども」の標記について。吹田市の行政文書の規定で「子供」と表記することになっているとのことだったが、国の行政文書でもひらがな標記にされているので、漢字表記のままであるのは遅れていると思うので、検討してもらいたい。

事務局：本自殺対策計画は吹田市第4次総合計画を上位計画としており、総合計画では固有名詞以外は「子供」と漢字で表記している。個別の計画によって異なった表記になることを避けるため、個別名詞以外は漢字で統一するとしているが、再度検討させていただく。

委員長：ここで時間も来たので進行を事務局に返す。

事務局：本日いただいたたくさんの意見を踏まえて計画素案を仕上げたい。

3. その他

- ・事務局より、今後のスケジュールの説明

閉 会